

301
155

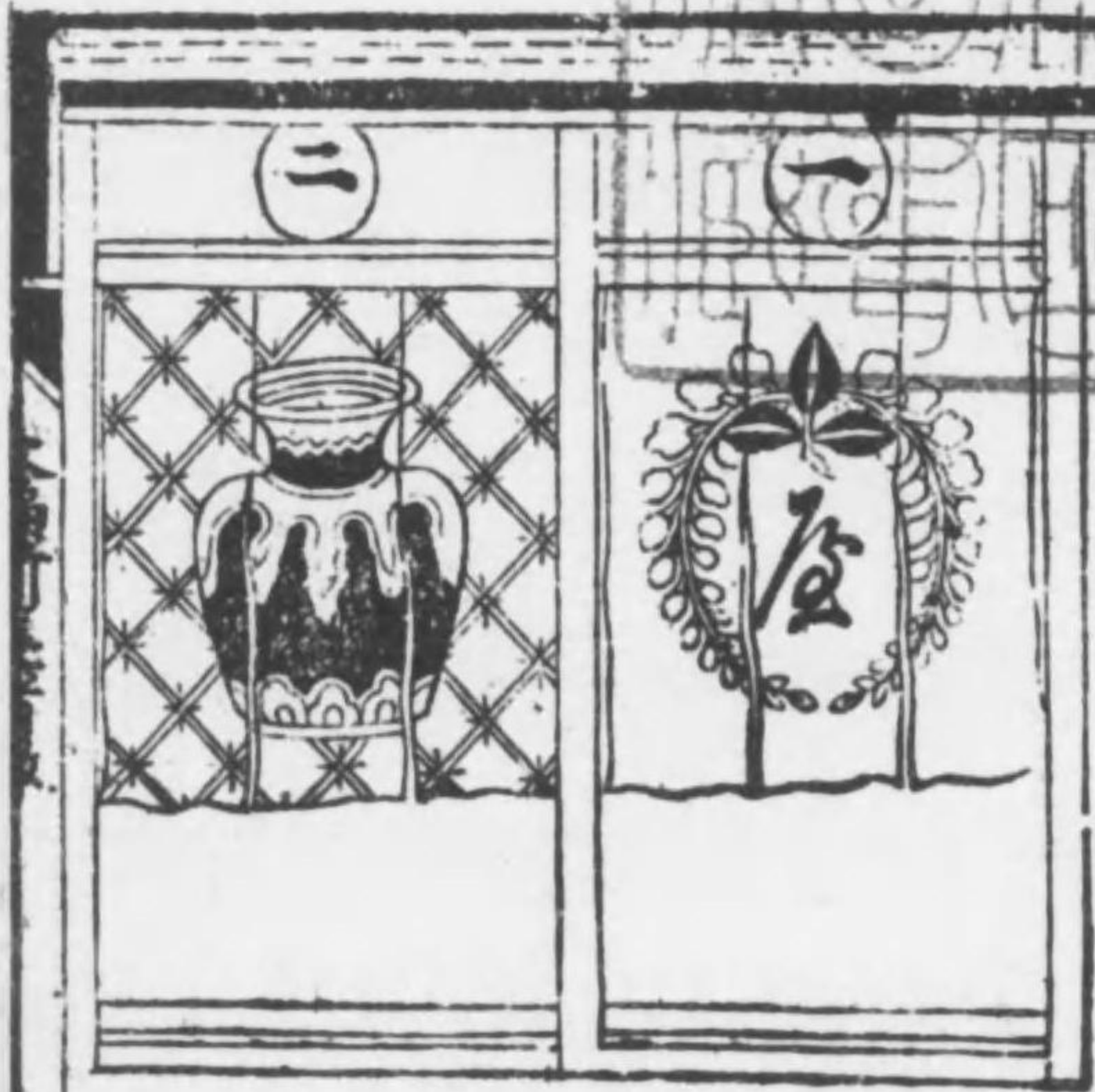


始



日本永代藏 二

大福新長者教



日本永代藏

目録

卷二

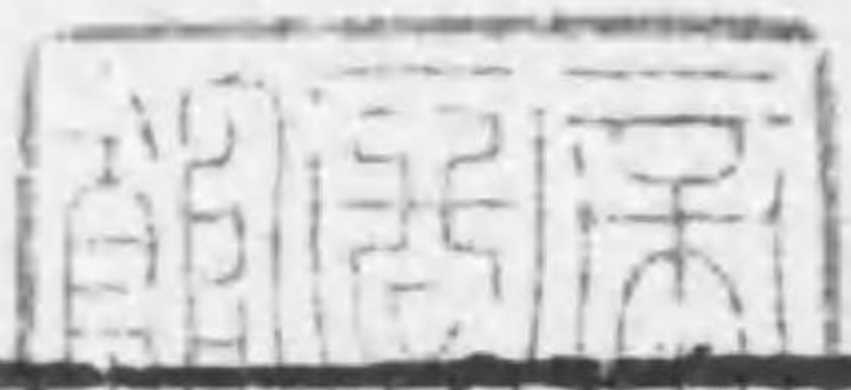
世果乃情を大物

糸木がえかたにまき
解橋とこり形一の宿

怪像乃冬神

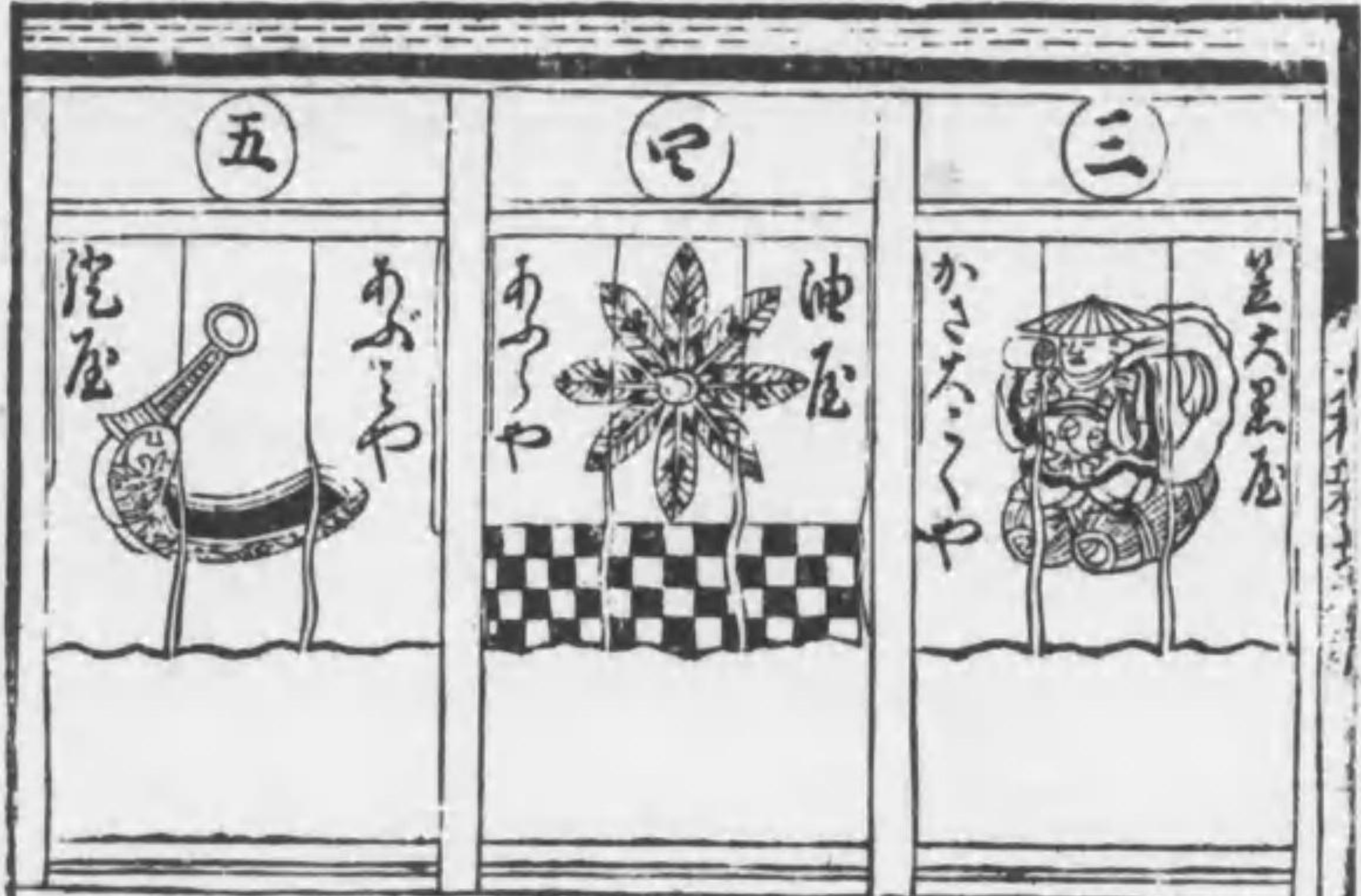
大津ふかえかたに
何とて世と海と浦





借在傳状之の室町 長久の借在示居し
 世の市に人住よ子費用の産の廣と世の
 備とく子費用の於るのこゝありし馬九通小二十
 八費用の於貨とたれが利のつりくおのりく流れ
 借とありし是と悔とぬ今とて借在し居く乃か
 借とありし小向法ありし系乃居く乃内庭の藝
 借とありし市利發ありく一代乃り小かくま
 富きよありぬが一人の借固ありきとるえたり
 男家業乃外よ反故乃性しくり並く見世に
 二日き紙振りの取替乃女代通れは後小判乃
 付並未向を乃賣買と空合を本業を其の服在の

世の借在大将



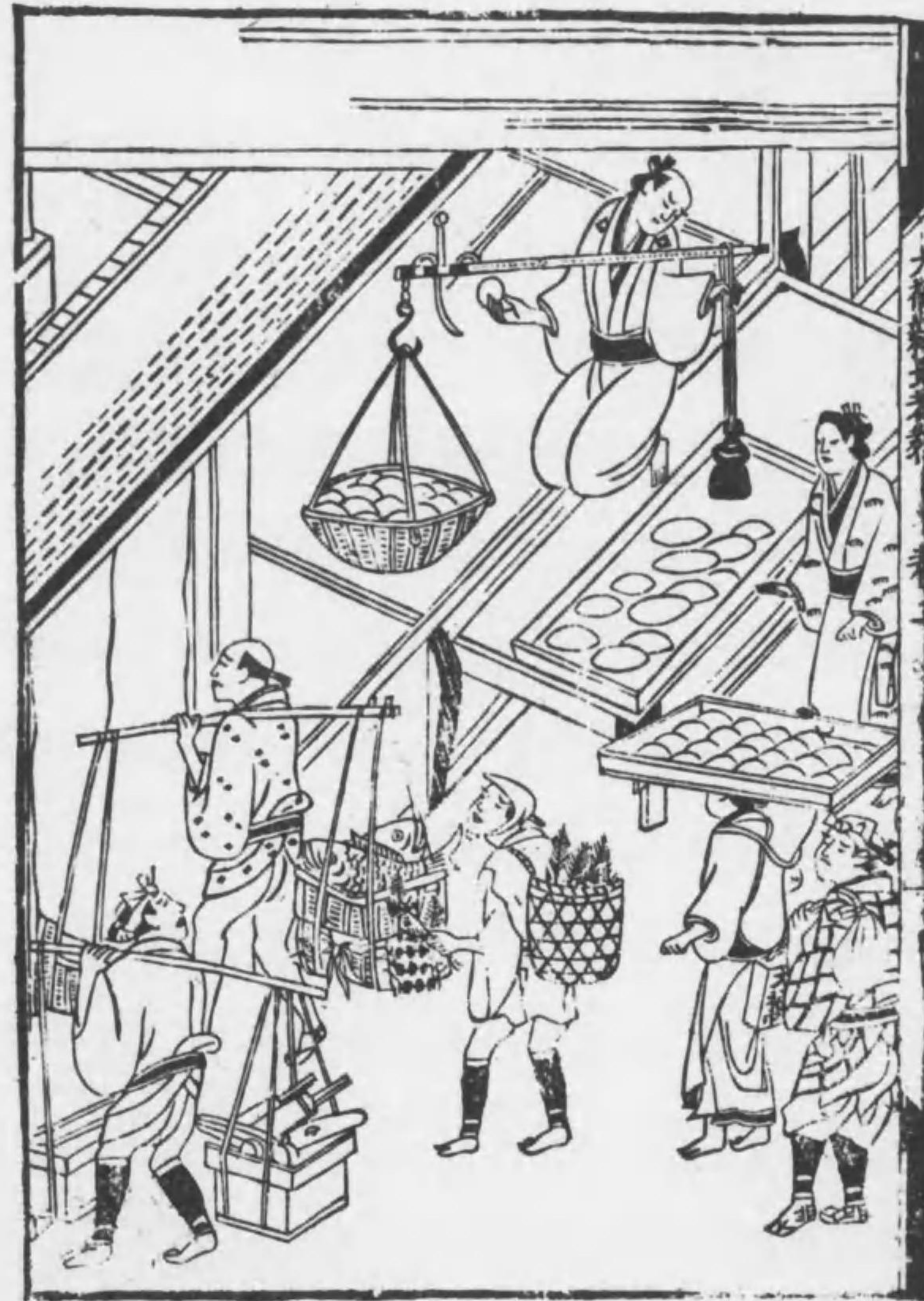
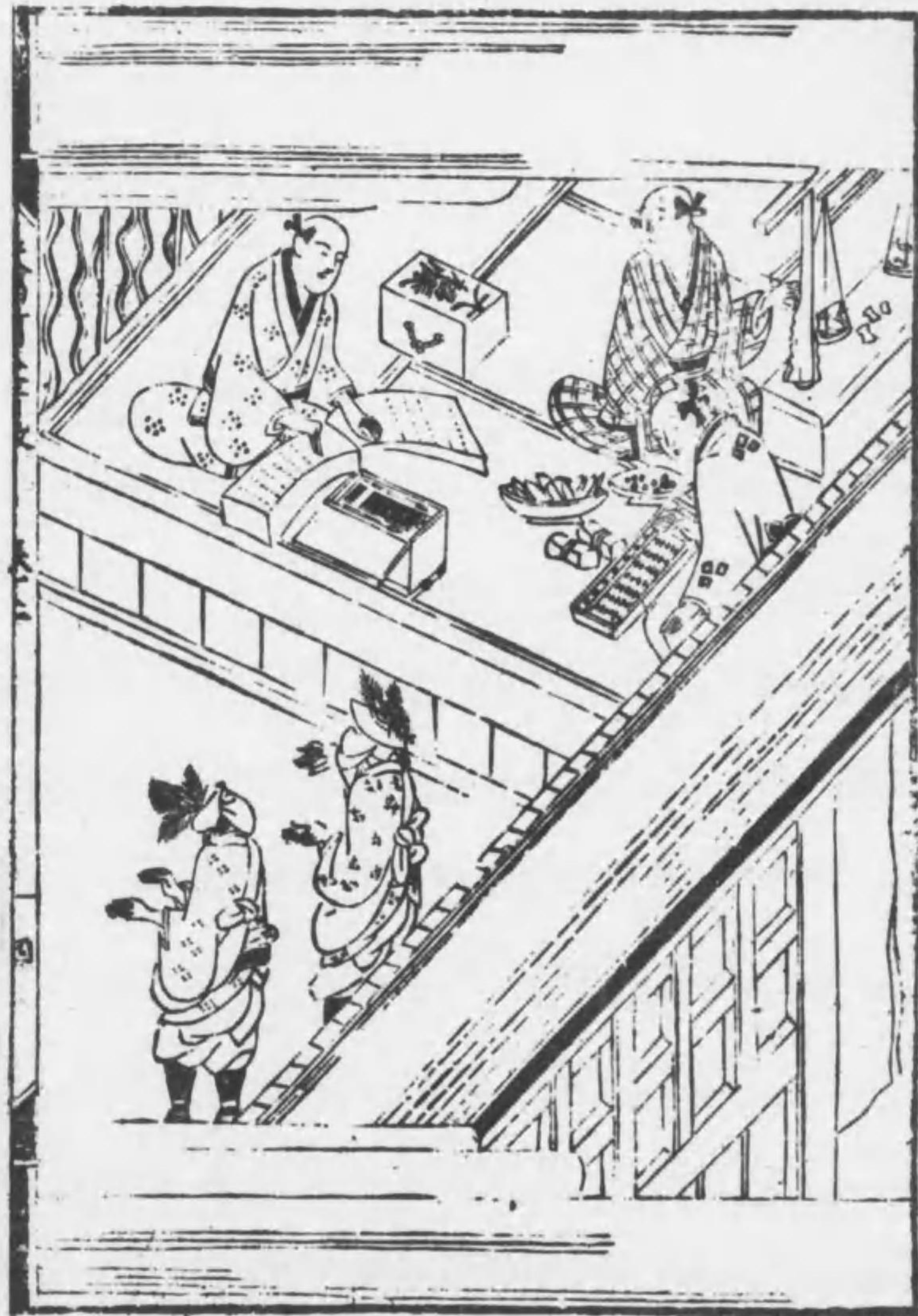
女寛と並小恙大思
 小かかれなれ小念持
 勢もれたもく大の馬場

天狗の家名の風車
 紀伊國小島とこれ舞の
 横をゆの小舟の出

舟人のかつ船屋乃座
 飯田かかれの船屋乃座
 ゆれはまゆり老物の座

ひまよ長湯乃花子瓜が子標綿法酒い江戸柳の掛
目瓜足合を毎日万子と記し一紙ハ終一のハ安よ
初は洛中乃新買よなりなる不次乃月抄肌よ平
綿結大布子綿三百目入とひのり外よまろ
か一袖後梅こつふゆい人なとめく高世乃風俗
んよげよ指赤よありぬ草足貸よ右踏瓜とたぐ終
よえ瓜瓜くつとありとてのめ一せれうら小指ぬ
とくハ袖れねえひの海松系波小早のあひの
全分制と十年巨是と梅くちひの紋瓜定ぬ丸
乃内小三引又いき寸八分乃瓜付く去用干し
魚乃正小並一の並と麻袴よ鬼縹乃肩衣兼年
折目心く丸並ハ所町並よわの舞礼一の是也
くも初山よおらりく人ち終よゆりぬよ六波尾乃

おろそそハ僕もろを若春と引く是と法干し
業お所ぞと兵の通くと疎くおぐ極石瓜指く後
ハ後初乃標と立る世帯指のうけか指よ瓜付
とてはあつへくはび男生れ付く懐たよゆ
万ゆ乃ぬまり一人乃燈少とありぬた極ひか
ハ終よとてうらば着よ解搦と判ぬ時の人まの法
たまれぬ色色やうゆきとく毛也利動よて大佛乃
おへあつへんを費用よ付何程く極めを係十二月廿八日
乃唄いそねとく初ひつと高をかんせよなとくけぬ終
こい解の搦とく乃ぬりくまめたとんてを係
とらぬぬとく十夜盤並よ小解をハ時か搦ひいと
情と兼あらぬとくたえらりきおひと本社介の目
と語たくとへ一ぬ一財とらりて今今解情たとい



つゝも海へて海にぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
過りつゝもぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
減りつゝもぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
多分年時ぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
生以目鏡ぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
のひつゝもぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
らぬ仁のぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
整ある付いたぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
屋敷のぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
仁のぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
一垣ぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
しつゝもぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
面白いのぬいぶるまはるはなほむもふれたるを

らせもぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
源氏傳のぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
山出のぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
補せぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
かゝるぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
よ後ぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
髪かゝるぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
らぬぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
まのぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
ふぬぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
度ぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
あゝぬいぶるまはるはなほむもふれたるを
乃ぬいぶるまはるはなほむもふれたるを

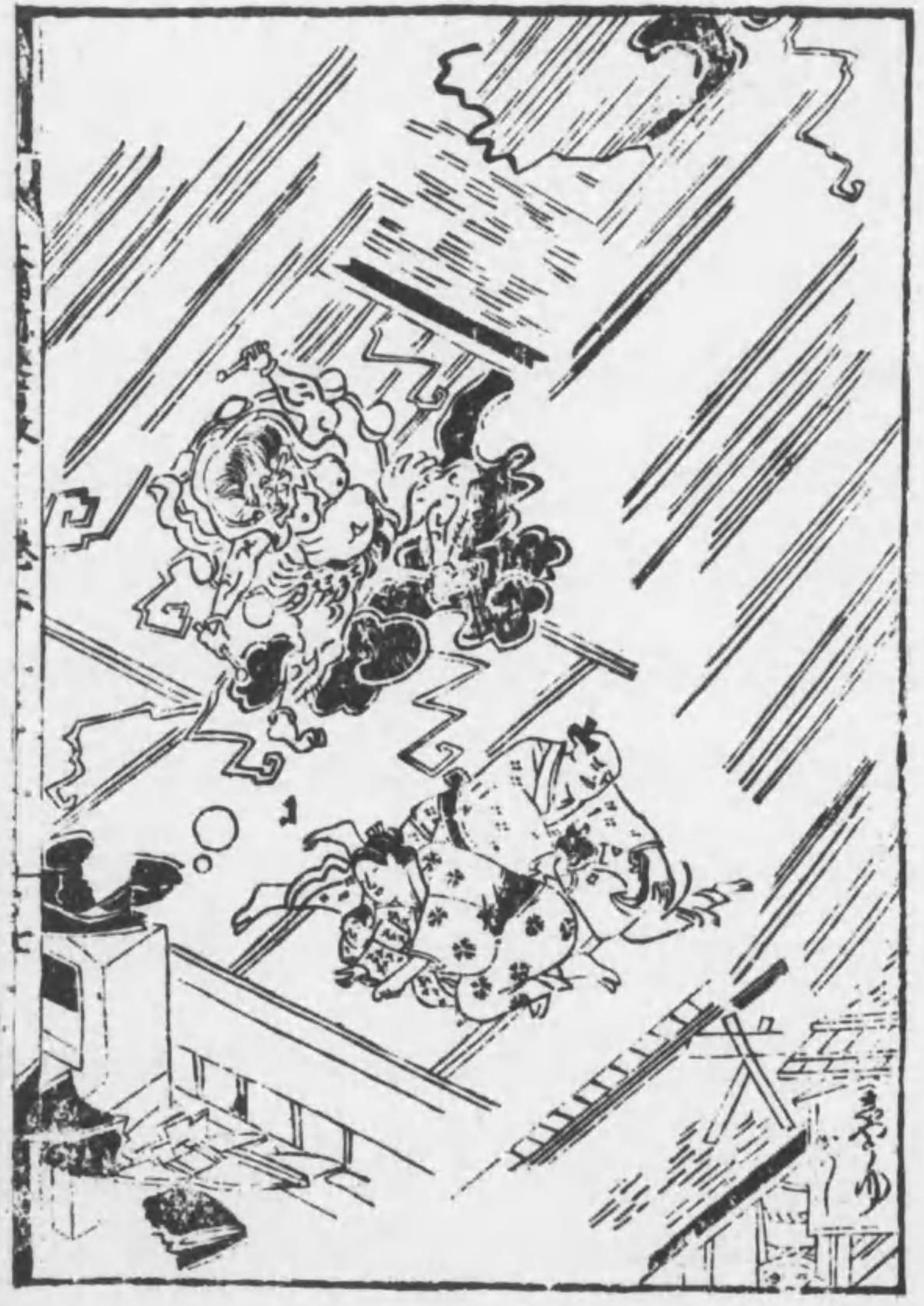
小島町をたゞし扱作のちひひとこころれが客耳とよらふ
せもと推しとくは餘りなほおとつてわくくつてあれが
肌灸あるべしといふひりりつて考へてあつたおら付
々後必だつてあつておらつて教市おとくといふ世海り
乃大ゆつておらつてつてせせ居て入トセツて今日乃七ま
こいづ備のつてあつてつてつてつてつてつてつてつてつて
坊あつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
垂つてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
ふせつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
何白げく一膳とて一年中あつてつてつてつてつてつてつて
表とつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
各叫一入のえんお合のつてつてつてつてつてつてつてつて
かりたつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

怪あつてつてつて

和波や近い乃湖し流りくも一井入登つて通り也
大津乃町おお油を乃花平流つてつてつてつてつてつて
小田乃舟おはえんお合のつてつてつてつてつてつてつて
と夷一入のえんお合のつてつてつてつてつてつてつて
とく夷一入のえんお合のつてつてつてつてつてつてつて
くを造り青おのつてつてつてつてつてつてつてつてつて
と白女一入のえんお合のつてつてつてつてつてつてつて
のつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
下乃らあつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
と後我高しおとつてつてつてつてつてつてつてつてつて
あつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
あつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて



うし後述たもが祖として後一み天の清む地か
漏れど正色かまへくふも色持のぬむむお疾ドる高
奏とわらうらねせと一日事一と衆一とける笑古の
わらり小森山まねてうら入かこのうらとく茶師ハ上
味も切ぬれを敷の山風程なるふも色へのと茶師
と所小味乃終てぬ小林春乃掛強色もあひ
とく方乃紙裁の書付はとり一と理もこのと相二まの
ひと頭織せんやうはひふかりぬ衣巻つた髪師色
傾成乃の小同下年ぬ五へのうらんと高の居れの外やあ
一と毎目お麻乃時かよりと出くうらぬの法も法あ
め又いさ祝も乃舞巻よけと進ハ赤色あこのゆん
とらねり一のうらびかたぬけと法れも程もれ毒
な所相のあ一人は法も法もとらねく口わりり。



あまのたまき本會乃希一番ふ三境つ菜の代り
く、樹くたなと注ゆーと世はかく入るよるまじく
町といふ下り坂本を仁と乗居くまはかの大商人あり
あぐ大紅乃張紙あつかうゆりおとく家屋賣く
武指八費用ありーとなく通を信三十貫文と高
賣入られーらふ今おとく喰ひて何とまじ
まはひびつと持乃ある男賣及種乃社人ーなれと
て一門中はせよんかふだれた母親乃浪居張費用
あるはひつりのまねるふびんおおられせめつとせれと
とせせよとむ様とせめりー、後れたたき糸と流く
二年とあけまじ、席草ーあひまきく、月ふ八指目？
竹浪まーびる切ーま入るまじつとつららりー、先んじ

ぬろがまき人けふ仁と命とく、背腰痛びつら乳のま
せしゆが是くまじとて外はねむいはるおとく安ふの
つと毎日おとくまじとせれとまき人おとくつとつとせれま
あ、まじつととく、積費用乃竹浪、そへ、指目九び口
ひるが、一は指目ふ倍たふな乃な髪とのけく、む
白米乃、た小味、塩、茶、とて、のへ、帝、信、お、れ、物、来
ひ、外、よ、の、つ、あ、く、三、月、乃、朝、と、ま、ね、松、草、ま、竹、吹、吹、
と、指、目、と、目、よ、ら、つ、ら、つ、ら、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、
大と、若、中、ふ、ひ、つ、の、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
乃、の、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
よ、か、と、の、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、つ、と、
せ、や、は、れ、お、ひ、ろ、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、ら、
人、樂、く、と、年、あ、と、と、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

乃婚一夫一妻乃婚一神一妻...
一あまのりか...
と妻...
又此...
百...
い...
さ...
い...
乃...
し...
と...
め...

持...
や...
さ...
か...
と...
あ...
ら...
こ...

大光と名づるは其の大黒
一ふ徳之階造り三階蓋と名づるをば林は又黒屋とい
つ所を記するは富きい世にさる所と行つて大黒の
格切石は掛かり所時あつたより三枚目乃板とありて
大黒は別まを徳心は油わりの油中は入る所と大黒
は別ま房とありて入りありて男と入る事と大黒
は別まのくく親にありてその徳の徳紙格り退つて
殿居れお交とせしめ然るに新六徳は金銀と煮一兼用
ゆら乃さあそひ年立の百七枚費用入帳乃肉の久
ざりしゆ逆も傳乃時を美儀あれは代ひの
とありて突突乃ら格り物定は立七月あつて漸
候一向後意成心たると是思ふはゆくとせし
更し突入とせし年乃書し又武百三十費用と

らど今の内池尾に見て橋舟の夫のおよろふ乃
人わりくもは徳の徳をぬ親に殿立せしめ
とて徳くと枝徳おとすべ町に候は徳とせしめ
と切く子成ひより格り後され親乃らよりして是程
まてよりゆつてゆ大とありぬ思ふあり新六徳
おれた合とるあふ乃備をふも居しと前尾小あり
くまよと追込なりと入行乃の草鞋法とてあり
かありしは徳がひよりとあげくに甲斐のひは
十二月廿八日乃新六徳は入しとそれ親に格り
おつたはゆつて徳はし徳入ひの麻にけは
帯と格り下帯と大黒ははひとく逆のひは
立よと尻かづけとれと廿九日れとありて
つとやふの白書れは森の松よりありて



卯乃首飾入ね乃持巨胸のひびき大龜首物
 袴寺乃茶屋乃奇祭湯釜行沸とれりく
 かたききみはたれもわさひあぐ一持をけ
 まば腰かけとんある大津依んき飛乃起つた大勢
 のどきこはぬされは咽乃かつたとささぬはく乃脱
 袴一巻海越とらひ。とらめく盗合よたひてり
 小野と云里よつたぬ海素志と推さひと持の木
 の樹まき子友達の集りく憤や兵考より死るる海
 比谷守の特半程ある大あると走あぐもと貫は
 巻しはくん若根山の葉よはく時以候つるまは
 ころんは痺の妙業よあり大あり三年あまら後くの甚
 あふ今も焼よたひといはくくハ信人乃るぞとあわ
 乃柴枯笹瓜あひめ大打倉紙九郎一煙乃持と印

大津長考 卷二

古那乃竜田へりみらの神の志とせせめく新らに
木綿布ふおれわくつるゆと男匠とく是れ付く色
仕付るゆゆとまじりておぞとつ小孫より
どよの智あるの出付とまやわさしよ又まき人の衆列
場乃をわたりし方一のこまき自傳とくあ
よふりぬぬの平好を仲彦と智た瓜ゆりる葉乃
湯の金森宗和は流れと流傳文の流葉乃を改めまじ
連那の山宗厚乃下と流傳の小島乃流傳流傳の
生田と志ある乃を流傳は流傳流傳乃を瓜ゆりる
流傳の井ある乃流傳乃を瓜ゆりる流傳乃其志まき
りり流傳の八橋流傳は流傳の流傳乃其志まき
りり流傳の流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
其志まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
其志まきまきまきまきまきまきまきまきまき

聖師松比の終本平八とてあ
較よ中遠よなまき人おれと流傳乃まきまきの石
人よ流傳の流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
とれと流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
葉乃用乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
るよ流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
とと流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
あより流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
親事乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
通り乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
と乃相傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
と車乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃流傳乃

乃其の上相終りてその日一歩の夜あつく朝は
よきより秋と色あはるるを回里の道とておぼしむ
よりのなるるを咄とておぼしむとておぼしむ
せび三人は小口伝柄とて傳ふるを使のわきとて
色たのり傳とて下り給ふるを物とておぼしむ
ゆゑぬじり今かきまらるるを物とておぼしむ
くかき清まらるるを物とておぼしむ
ひくもあはるるを物とておぼしむ
月半乃のりて人の影を物とておぼしむ
とて只伝がかりて人の影を物とておぼしむ
内よ高れ仕仕のあはるるを物とておぼしむ
貝かきとて物とておぼしむ
よあはるるを物とておぼしむ

其の切妻が柄のあはるるを物とておぼしむ
智恵付の柄のあはるるを物とておぼしむ
ゆゑぬじり今かきまらるるを物とておぼしむ
くかき清まらるるを物とておぼしむ
ひくもあはるるを物とておぼしむ
月半乃のりて人の影を物とておぼしむ
とて只伝がかりて人の影を物とておぼしむ
内よ高れ仕仕のあはるるを物とておぼしむ
貝かきとて物とておぼしむ
よあはるるを物とておぼしむ

大物の家ま同車

有る海産く日本の入の粗とて... 柴天の産く海り... 大物源内とつる入... 大徳はけく... 大徳はけく... 大徳はけく...

三十三... 大物源内とつる入... 大徳はけく... 大徳はけく... 大徳はけく...



舟入るの儀

小回乃字半毎年冬三入海の儀の儀
正月乃初めりおなと埋入るれ通の儀の儀
の埋入るの儀の儀の儀の儀の儀の儀
たしと実と並揃乃用煮焼たしと
と善後不通ありと何とせと小の言
一茶めくちちりぬ儀の儀の儀の儀
備今と及なりと浦山と背ちりて
物儀とて六万も並ゆと遠敷とて
実ありぬのの儀の儀の儀の儀の儀
儀の儀の儀の儀の儀の儀の儀の儀
年乃小の家業入儀の儀の儀の儀の儀
乃実入る儀の儀の儀の儀の儀の儀

裏の六十八間と成屋よまつけ
多伝来味音也入乃後入焼本乃
儀の儀の儀の儀の儀の儀の儀の儀
乃後儀の儀の儀の儀の儀の儀の儀
全儀乃儀の儀の儀の儀の儀の儀
くおれ自由儀の儀の儀の儀の儀
どのさび内儀の儀の儀の儀の儀
唯まて突ひぬと中く上乃乃同
儀の儀の儀の儀の儀の儀の儀の儀
くあそく入る儀の儀の儀の儀の儀
相とて相とつら女三十七下小
ととく大なる儀の儀の儀の儀の儀
らくお小入つて儀の儀の儀の儀の儀



刷印日一月三年二十和曆 行發日四月三年二十和曆			
所 著 有	藏 代 永 本 日 複 刻 (卷六全) (續十五四五卷全)	發 行 者	複 刻 者
發 行 所	印 刷 所	印 刷 者	發 行 者
東京市神田區錦保町二丁目十番地八 電話九段一三三〇 振替東京二六九一	東京市神田區錦保町一丁目十六番地	東京市神田區錦保町一丁目十六番地 奥村 俊	東京市神田區錦保町二丁目拾番地 來 島 拾 六
山 海 堂 出 版 部	奥 村 印 刷 所		來 島 拾 六

ことばは換へて換へるはむらさきく。何れは一汗ありて
 乃雲雨実物大なるふりたれはれまづつひとなく
 らく同丸の内池脇より乃丸まきまきまひのれ外法
 ぶれれ入るゆありとれとま新あゆみ節よたせは
 かあへん表微らくあえーのび年中乃足録り
 え目れふのあめくそらるるどなうま算用乃めく
 ぬゆありはな色は合れも何来年中乃産産
 ぬ年乃括月よ細へ懸えれり年中九全全
 とま括よおとく一穴とぬく毛一うら入十二月十一日
 ぬくぬきとけはそらるるあま実同産産とわ
 つのくとぬれ後らるる家なり

終